

平成 17 年度京都府立峰山高等学校弥栄分校 学校経営計画（まとめ）

学校経営方針（3～5年の中期経営目標）	昨年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>全教育活動をとおして、生徒・教職員がともに成就感と感動を味わえる、明るくさわやかな学校づくりに努める。</p> <p>[地域と連携した弥栄キャンパスの教育] 分校の特色であるきめ細かな指導による、地域の教育要求に応える教育の推進 校種間、専門機関と連携した、地域と一体となった教育の推進</p> <p>[農園芸・家政・環境教育を生かした魅力ある教育と個性を生かす教育の推進] 農業の多面的機能を視野に入れた農業教育の実践 省エネ・環境保全型社会に対応した環境及びエネルギー教育の実践 家政科における生活産業分野で活躍できる人材の育成</p> <p>[自立精神の育成] 人を大切に、同時にモノを大切に育む人材の教育 主体性と社会性を兼ね備え、向上心に富む人材の育成 特別活動や部活動の充実と活性化</p>	<p>[成果] 進路指導の充実（面接必勝法作成・模擬面接充実・コーチング技術研修実施など） 地域と連携した専門学科の取組、地域に開かれた文化活動の推進（奈良丘祭など） 教育相談におけるスクールカウンセラーの活用 外部評価導入と課題の改善点の明確化 和、郷土の文化と環境学習の教材化の充実 外部講師の活用による魅力ある授業の創造</p> <p>[課題] 中学校訪問、HP更新など広報活動の推進 進路情報の内容徹底と生徒の学習状況の把握 わかる授業に向けた授業改善と評価規準の作成 学業不振・欠席時数オーバーに起因する中退 ・原留防止のための指導 規範意識の向上と教職員の一致した指導 心に問題を持つ生徒への対応 特別活動、部活動の活性化</p>	<p>教科指導の工夫改善と授業の充実 きめ細かな指導による、心に問題を持つ生徒への対応 地域と連携した専門学科の取組 特別活動、部活動の充実と活性化 安全、安心の学校づくり 広報活動の推進 規範意識の向上</p>

分掌名	評価領域 (業務領域)	重点目標（取組の重点課題）	具体的方策	評価	成果と課題
0	組織・運営	1 学校評価や、教職員評価を実施し、学校や教員の改善点を明確にする。	学校評価と教職員評価を実施し、具体的方策や教職員の自己目標に反映させる。 庶務部と連携し、学校評価実施し、改善点を明確にする。 教職員評価の試行を行う。	A A B	<ul style="list-style-type: none"> ・両評価、生徒の授業評価をそれぞれ実施した。次年度に向け、活用できる。 ・教職員評価の中間面談は日程的に無理。 ・評価結果から分掌業務内容の定着のため、継続実施の必要性。 ・目的意識のある生徒獲得の為に中学校訪問が不足。 ・学校評議員会を分校で1回開催。 ・消防訓練実施、防犯訓練未実施 ・校内巡視は70%実施
		2 各分掌の取組の円滑化と内容の充実を図る。	部長会議の内容の充実検討を図る。 各分掌の業務内容の整理統合を実施し役割を明確にする。	A A	
		3 開かれた学校づくりの中で、目的意識のある生徒の募集を行うとともに、中学校との連携を深める。	「奈良丘通信」を発行し、中学校など関連機関に配布する。 中学校を定期的に訪問し、募集活動や在校生の指導に生かす。 学校評議員会の活動を分校の教育活動に生かす。	B C B	
		4 学校の安全管理を徹底する。	非常災害時の教職員・生徒の危機管理意識の向上を図る。 施設・設備の定期点検を行い、学習環境の安全を図る。	B B B	

分掌名	評価領域 (業務領域)	重点目標 (取組の重点課題)	具体的方策	評価	成果と課題	
1	教務部	学習指導	1 新入生オリエンテーションにて、単位や進級に関する知識を得させる。	本年度オリエンテーションは、2回に分けて実施。1学期成績不振者へ対し、2学期当初に学習指導。	B B	<ul style="list-style-type: none"> ・単位や進級に関する認識は定着。 ・原級留置者の怠学による悪影響がある。指導方法の再検討の必要性あり。 ・特定の生徒が遅刻、欠席の繰り返し、生活改善をプログラムする必要あり。 ・漢字テストは表彰を励みに頑張る生徒が増加。 ・過年度追試合格に向け一層のきめ細かい指導必要。・「わかる授業」を目指し、授業評価から生徒の求めている事柄を把握する。
			2 遅刻・欠席調査を強化し、生徒の学習指導に活用する。	遅刻防止立ち番。個別面談。保護者召喚の実施。	C B B	
			3 校内漢字テストを継続し、基準に達した生徒・クラスを表彰し、学習意欲を高める手段とする。	校内漢字テストを月1回、年間9回実施する。年1回の個人表彰、および各学期にクラス表彰する。	B B	
			4 過年度不認定科目の合格を目指す。	昨年度より合格率アップを目指す。第1回(3年:40%、2年:0%)	B	
			5 「わかる授業」を通して学習習慣を身につけさせる。	授業改善や公開授業(研究授業)を生かす。	B	
2	生徒指導 (含む人権教育)	人権教育	教師・生徒共々人権意識を高める。	学期に1回の人権学習を行う。 年間計画の早期作成、担任との連携を密に実施する。 外部講師を招き、教員研修を行う。	B C C	<ul style="list-style-type: none"> ・行事が過密化、十分検討せず実施するものもある。 ・学校行事は計画通りだが、教師主導の域を脱しきれていない。自主性育成の場にする必要あり。 ・生徒の規範意識の低下、意識向上のための指導や、自分たちで考える場の設定が必要。
		特別活動	1 各種行事を通じて、学年の自覚と主体性・協調性や責任感を育成する。 2 部活動の活性化を図る。	球技大会・学校祭・奈良祭等の学校行事を計画的に実施し、学年・クラス、科で取り組ませる。部活動の時間を確保し、顧問が部活現場に付きそう。	B C	
		生徒指導	・身だしなみ(服装・頭髪)や携帯電話マナー違反等、学校生活のルール・マナーの向上を図る。	巡回指導を日に3回、全教職員で月に1週間を実施する。喫煙防止体験教室を開催する。規律が守れない生徒には早期に指導し、4月は授業中も巡回指導を行う。 ルールを徹底し、保護者等も召喚し指導する。全体集会等で話をすると同時に、ホームルーム等で討議させる。 学期に1回程度街頭指導を実施、交通安全教室を開く。朝には、教員が率先して挨拶をし、教室・職員室等で、言葉遣いが悪ければなおさせる。	A B B C C B	
3	進路指導部	キャリア教育	生徒に勤労観・職業観を持たせる。	「働くとはどういうことか」考えさせる 「なぜ進学するのか」考えさせる。 フリーター防止HRを実施する	B B B	<ul style="list-style-type: none"> ・居眠り、相談会エスケープ生徒の自覚向上が課題。 ・面接準備をしてきた生徒は良い結果を得た。敬語指導は継続性が必要、課題。 ・挨拶、マナーの向上には、社会性を育て、集団生活を意識させることが肝要、分校最大の課題。 ・就職希望者は意志はあるが具体的職場を絞れない、進学希望者は意志はあるが、卒業後の方向性が絞れない。 ・インターンシップの推進には、契約書を準備し企業訪問が今年度中の課題。
		進路説明・ガイダンス	進路HR・進路ガイダンスを実施する	3年生:進路講話・進路説明会 2年生:進路相談会 1年生:進路HR	B C B	
		学力分析	学力分析し、学習指導・進路指導に役立てる	2・3年生は4~5月実施 1年生は6~7月実施	C C	
		面接スキル	模擬面接を実施し、敬語指導を充実する	3年生:集団面接、個別面接、仕上げ面接 探求・探求・HRで敬語学習を取り入れる	B B	
		あいさつ・マナー	生徒に、生活の自立を促し、集団生活を意識させる	さわやかな挨拶ができるようにする。 「はい」という返事をできるようにする。 席を立つ時、椅子を机の中に入れる 目標を持たせ、追求させる。 けじめのある気持ちよい環境をつくる。	C C C C C	
		進路実現	希望の進路実現	3年生の進路希望の実現	C	
		インターンシップ	インターンシップの準備	地元企業等への協力依頼 ハローワーク等との相談	C D	

分掌名		評価領域 (業務領域)	重点目標 (取組の重点課題)	具体的方策	評価	成果と課題
4	保健部	健康・安全教育	学校保健計画に基づき、心身共に健康な生活を営む資質をやしなう。	<ul style="list-style-type: none"> 健康診断の結果をふまえた健康教育をおこなう。 薬物乱用防止、喫煙防止、性(エイズ)教育の推進。 環境美化の推進とゴミ処理の徹底。 	B B B	<ul style="list-style-type: none"> 計画はほぼ予定通り。 教育相談日は、設定だけではダメ、少人数で相談しながら動く活動など効果的な方法の検討が必要。
		教育相談	心に問題をもつ生徒への対応を充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 日常観察により、心の問題をもつ生徒の早期発見に努める。 相談等がしやすい環境づくりを行う。 家庭・専門機関と連携をはかり対応する。 	B B C	
5	図書情報部	組織・運営	学校経営方針を作成し、教職員に徹底を図るとともに「学校評価」を実施する。開かれた学校作りの中で、目的意識のある生徒の募集活動を行う。	学校評価に関する事項についてホームページを通じて公表する。 弥栄分校ホームページを適宜更新する。	B A	<ul style="list-style-type: none"> 学校HPでは、学校評価結果の公表予定、1月現在13回更新。人材育成急務。 専門学科の要望により書籍購入(農園芸科18冊、家政科33冊) 読書の時間は落ち着いて実施出来た。公立図書館、個人からの書籍借用が好結果。 関係便り計5回と「立志」を発行、貸出本数は減少。 公立図書館からの書籍借用は7回、計70冊。
		教育課程	学校の特色を活かした教育課程を編成・実施する。	専門学科教育のさらなる発展のため、農業・家政の関連書籍を重点的に充実させる。	A A	
		学習指導	読書習慣及び自発的学習態度を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 年1回の「読書の時間」を設定し、読書を推奨する。 「図書館便り」や教職員推薦図書を紹介する「立志」などの発行により、図書館の利用を活発化させる。 豊かな人間性を育成するため、年1回の「芸術鑑賞」と、年1回の「ビデオ鑑賞会」を実施する。 各教科の「調べ学習」等に必要な資料を提供するため、公立図書館等との連携を図る。 	B B B A	
6	農場部 (含む教科)	農場運営	農場収入の増大をはかる取り組みを行う	生産物の品質向上を図る 出荷数の増大をはかる(売り切る) 新作目を導入する	C B B	<ul style="list-style-type: none"> 生産物の品質は、天候による被害が続出。早めの作業の必要性。 ボランティア活動は、計画通り実施、内容充実要検討。 奈良丘祭で接客マニュアル作成。 課題研究では記録簿提出実施、記入内容不備等、一層きめ細かい指導に心掛けを。 ルール遵守については、毎時間毎に実施、徹底により成果。
		学校教育の推進	ボランティア活動を推進する	丹後あじわいの郷「フルーツフラワーガーデン」の整備・維持管理を推進する	B A	
			奈良丘祭の取り組みを充実させる	奈良丘祭をさらに充実させ、意義深い行事に創り上げる	B B	
		教科指導	プロジェクト学習と課題研究を充実させる	少人数講座の開講に伴い一人一人に行き届いた指導を行う	B B	
マナーを向上させる	作業の安全をはかるため服装・頭髪などの身だしなみを整えさせる		B B			
7	家政部 (含む教科)	教科指導	<ul style="list-style-type: none"> (1)生活産業で必要とされる基礎力が身につく教材の研究をする。 (2)各教科の評価規準を作成し、「わかる授業」の実践をしていく。 (3)課題研究の指導方法について研究をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 小・中のカリキュラムとの系統性を考慮する。 分野ごとの基礎知識・技術が定着できる指導をする。 各科目の評価規準を作成する。 	C B B	<ul style="list-style-type: none"> 基礎知識、技術の繰り返し点検のための小テスト、授業展開の実施。今後充実拡大が課題。 全行事が生徒達で取り組めた。一部生徒に自覚不足もあり、今後責任感強い役員の選出が必要。
		学科教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> (1)家政科教育の方針に合わせて、各行事・事業を推進する。 (2)家庭クラブの自主的なボランティア活動を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が自主的に取り組めるテーマ設定について研究する。 生徒の教科学習と関わらせながら行事・事業に取り組む。 家庭クラブ役員が自主的・意欲的に活動できるよう援助する。 	B B	

分掌名	評価領域 (業務領域)	重点目標(取組の重点課題)	具体的方策	評価	成果と課題	
8	庶務部	円滑な校内運営の推進・開かれた学校づくり	学校行事の実施にあたって円滑な運営に努める。保護者との連携を密にし、PTA活動への積極的な参加を促す。	B A	B	・PTA活動への保護者の積極的参加の促進が課題。 ・学校評価に関する分掌業務はスムーズに実施、評価会議は学期1回開催。
		学校評価	学校評価システムの運用業務を円滑に行う。	B B		
9	第1学年部	生活指導	規律ある高校生活ができるように指導し、一人一人の自立を促す。	C B C	B	・欠席、遅刻指導は課題山積、清掃はほぼ達成。 ・クラス役員は自主活動により育成が必要。 ・進路ノートは2学期活用、漢字テストは定着。面談は学期2回が妥当。
		学習指導	学習意欲の向上を図り、基礎学力をつけさせる。	B B C		
10	第2学年部	学習指導	(1)学習意欲を高め、学力(成績)の向上を図る。 (2)学習環境を整える。	C B B C	B	・全体的に落ち着きつつあるが、成績不振者の5割が指導困難。我が儘の克服と信頼獲得が課題。 ・清掃は自主的に実施。行事は気ままなリーダー出現に困難にも遭遇。家庭訪問は早めに実施、進路目標実現に向け、指導に役立った。
		生活指導	(1)よいコミュニケーションがとれるように指導する。 (2)規律ある集団生活ができるように指導する。 (3)家庭と連携をとり指導する。	B C B		
11	第3学年部	進路指導	自らの進路決定と希望進路実現に向けて努力するように指導を行う。	C C	B	・学校行事では、最高学年としての役割を果たした。女子は2学期中に全員進路が決定。男子進路決定が課題。
		生活指導	学校生活において最高学年としての自覚を持たせ、リーダー的役割が果たせるように指導を行なう。	B B B		
12	事務部	施設・設備管理	安全・衛生対策を徹底する。	A A	A	・危険箇所には冷房工事期間中に柵をするなど、安全を図った。さらに、危険箇所には、最大限予算措置をした。 ・分校特有の文書処理も実施し、目標は達成。 ・学校訪問者には、カード携帯や記録簿への記入を促し、気持ちよく対応出来た。
		提出書類管理	文書事務の徹底と簡素化を図る。	A A A		
		組織・運営	爽やか・はつらつとした対応に心掛ける。	A A		
13	国語科	様々な文章に触れさせ、国語を的確に理解し適切に表現する能力を育成する。 伝え合う力を高めさせ、思考力を伸ばし心情を豊かにさせる。 積極的に読書させ、人生を豊かにする態度を育む。	校内漢字テストと連動し、基本的な漢字の読み書きが出来るよう指導する。 ことわざ・四字熟語など語彙量を増やす指導をする。 漢字能力検定の受験を推奨する。 図書情報部と連携し、読書感想文指導を強化する。 自分の考えを論理的に述べられるよう、スピーチ指導を強化する。 進路指導部と連携して、敬語指導を強化する。 図書情報部と連携し、読書指導を強化する。	C B C C B B B	B	・2年生では「国語表現1」を「国語総合」の履修に変更。

教科名		評価領域 (業務領域)	重点目標 (取組の重点課題)	具体的方策	評価	成果と課題	
14	地歴・ 公民科	学習指導	わかる授業の実践	ポイントを單元ごとに示し、その要素となる基本的知識を板書時色分けする。 可能な限り、具体的教材を準備する。 参考となる文献、映画の紹介をする。	A B B B	A B	・私語、居眠り、教材持参しない、ノートとらない生徒は意欲なしと判定、意欲を高める時事問題の教材化必要。 ・基礎学力ない生徒への補習は効果薄の現状であるが、更なる内容精選が必要。
			確かな学力をつけ、進級・卒業させる	診断テストを実施し、授業に役立てる。 各科目毎に、基礎学力テスト(資格試験的な物)を実施し、評価に加味する	B C		
15	数学科	学習指導	・授業規律を守り、積極的に学習に取り組む姿勢を育てる。 ・基礎学力の向上を図り、理解できた達成感を体験させる。	授業のルール・マナーも成績に反映する。 板書は見やすく工夫する。 練習問題を増やし、生徒間で教え合う時間を設ける。 宿題を適度に出し、家庭学習を促し、点検をする。 ミニテストできるだけ行う。	B C C C B	B B	・各種工夫を試みた。更に如何に数学に興味を持たせるかが課題。
16	理科	学習指導	自然の事象、現象について科学的に探求する能力と態度を育てる。	校庭の動植物の名前を覚えさせる。 実験回数を増やす。 レポートを冊子にする。	C B B	B B	・レポートの冊子化は有効、継続。 ・雑草鑑定は工夫が必要。 ・実験回数は増加が効果的と判断。
17	保健 体育科	学習指導 ・体育 ・保健	・各種目に必要な身体感覚や運動技能を身につけ、それぞれのスポーツを楽しむようにする。	各種目の特性に合った感覚づくりを準備運動に取り入れる。できるようにするための指導の順次性を研究する。 グループ(チーム)学習で、協力したり責任を果たすことを学ばせる。	B B	B B	・班や指導順次性の工夫で能力アップの効果、2・3年生はグループノートの取組実施。 ・2年課題学習で、全員レポート発表実施、調査不十分や期日厳守出来ない生徒もあり、今後の課題。
			・健康に対する認識を高める。	わが国における健康の現状と対処・予防法を理解させる。 自然環境・労働環境と健康についての課題学習を実施し、調査とまとめの仕方や発表を学ばせる。 働くことと健康の問題を理解させる。	B C B		
18	芸術科	音楽	音楽の基礎的な能力を習得し表現に活かす。	読譜・視唱の時間を設定する。 器楽アンサンブルや合唱に取り組む。	B B	B B B	(音楽)・全体的に意欲的な取組 ・合唱も文化祭で発表。 ・学習環境は整備が急務。 (美術)・デッサンでは線と光、石膏像、球体モチーフを選んで制作、絵の具。筆の特性生かし更に向上を目指す。 (書道)・納得いく作品の追求姿勢、書を楽しむ余裕が見えた。
		美術	授業で制作する作品の質的向上を図る。	デッサン基礎 ・コンクールに応募する機会を与えることで、向上心を育てる。 ポスター制作 ・コンクールに応募する機会を与えることで、向上心を育てる。	B B		
		書道	書写能力を高め、書の表現の基礎的能力を伸ばし、書を愛好する心情を養う。	1学期は臨書活動を中心に書写に取り組む。 2学期は実生活で多様する行書体をマスターする。 3学期は漢字仮名交じり文や隷書を学び、創造力を高める。	B B B		
19	英語科	学習指導	日々の授業において指導工夫と改善を行う。	進学希望生徒及び低学力生徒に対応した学習指導を行う。	B B	B B	・学習プリントにより、英語の苦手意識軽減、内容理解に効果。 ・小テスト未実施クラス有り、休業中課題の内容、量の検討必要。
次年度に向けた改善の方向性		<ul style="list-style-type: none"> ・幼・小・中学校との校種間連携の推進 ・「わかる授業に」向けた一層の授業改善と指導方法や評価についての研究推進 ・学業不振・欠席時数オーバーに起因する中退・原留防止のための指導 ・社会人として通用するマナー及び規範意識、他者への思いやりの指導 ・教育相談のあり方、特に心に問題を持つ生徒への対応 ・特別活動、部活動の活性化 					